

横山篤夫さん著 『「英霊」の行方』『銃後の戦後』

同時出版記念シンポジウム

と き ; 12月10日(日)

午後1:30~ (受付開始1時)

ところ ; たかつガーデン

(大阪府教育会館) (右にアクセス図)



- ① 近鉄線/大阪上本町駅(地上ホーム)より200m
② 近鉄線/大阪上本町駅(地下ホーム)(近鉄①番出口)より200m
OsakaMetro 谷町線・千日前線/谷町九丁目駅(近鉄①番出口)より500m
③ 車の場合/
阪神高速道頓堀出口より5分
たかつガーデンの正面に
提携駐車場有り

自転車・單車などは、必ず所定の位置に置いてください。

参加費 ; 500円 予約不要

プログラム ;

- 1, 横山さんの活動と研究について 小田康徳 (15分)
- 2, 著書の紹介とその意義 奥田裕樹 森下 徹 (45分ずつ)
- 3, 著者のコメント 横山篤夫 (20分)
- 4, 意見交換 (50分)

軍事戦争遺跡と戦争の記憶 その評価と保存の道
戦争と国民 国に求めること 等々

* 著書購入希望の方には、定価1冊4950円(消費税込み)を出版社から当日3500円で販売していただけます。



《今回の2冊の著書について(裏面に略目次等)》

今回発刊の横山さんの本は、地道な陸軍墓地研究と内地・外地の忠霊塔研究から生まれました。そこには、国民から見た兵役と戦争の実態が実証的に示されています。まさに、軍事戦争遺跡の歴史認識を一段高めた名著です。成果を共有して、それを生かす道を考えましょう。「新たな戦前」にならないように。

《横山篤夫さん》

1941年生まれ。元大阪府立岸和田高等学校教諭、元関西大学非常勤講師。NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会副理事長。著書『戦時下の社会—大阪の一隅から』(岩田書院、2001年)。共編著『陸軍墓地がかたる日本の戦争』(ミネルヴァ書房、2006年)。共編著『兵士たちがみた日露戦争—従軍日記の新資料が語る坂の上の雲』(雄山閣、2012年)ほか。

共

15年戦争研究会

催

NPO法人 旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会



「英霊」の行方 横山篤夫著（元関西大学非常勤講師）

定価：本体価格 4,500 円＋税 2023 年 7 月発刊

私たちは「英霊」をどこへ置き忘れてしまったのか。戦争遂行のために利用された靈魂は、歴史研究者たちの手により、旧真田山陸軍墓地において、戦争遺跡からいまや平和の礎としてメッセージを発している。

* 目次紹介 *

序章 軍事史研究の進展と旧真田山陸軍墓地

第 1 章 真田山陸軍墓地の沿革

第 2 章 戦後の旧真田山陸軍墓地

第 3 章 納骨堂はどのように建設されたのか

第 4 章 日本陸軍にはかつて「生兵」と呼ばれた兵士がいた

第 5 章 野田村の軍人墓地は今……

あとがき

索引



銃後の戦後 横山篤夫著（元関西大学非常勤講師）

定価：本体価格 4,500 円＋税 2023 年 7 月発刊

忠霊塔建設運動、遺族への物心両面への補償などが戦争遂行の機運を高めたが、敗戦後その課題にどう取り組まれたのかを明らかにする。

* 目次紹介 *

序章 戦地の忠霊塔と夫が戦没した妻たちの思い

第 1 部 日本軍が戦地に建設した忠霊塔

第 1 章 大阪の忠霊塔建設

第 2 章 日本軍が中国に建設した 13 基の忠霊塔

第 3 章 シンガポールの忠霊塔

第 2 部 銃後の戦後

第 1 章 戦没者の遺骨と陸軍墓地

——夫が戦死した妻たちの 60 年後の意識から——

第 2 章 旧制岸和田中学校の 31 通の戦死者公葬弔辞

第 3 章 なぜ戦後各地に軍人墓地が作られたのか

——泉佐野市の事例から考える——

あとがき 索引

《阿吽社》

住所 〒602-0017

京都市上京区衣棚通上御霊

前下ル上木ノ下町 73-9

電話 075-414-8951

FAX 075-414-8952

URL <http://aunsha.co.jp/>

Email info@aunsha.co.jp